

桜ヶ丘小の「よかった点（○）」と「課題（●）」

【全国学力・学習状況調査：国語・算数・質問紙】

国語○A問題の「話すこと・聞くこと」の平均正答率が県平均・全国平均と比べて高かった。

国語●B問題の「書くこと」の平均正答率が県平均・全国平均と比べて低かった。

算数○B問題では、すべての領域において、平均正答率が県平均・全国平均を上回った。

算数●A問題の平均正答率が県平均・全国平均を下回っており、全児童の基礎基本の確実な定着が課題である。

理科○全国平均にはわずかながら届かなかったが(県平均は超えている)、理科が好きな児童の割合は、全国や県平均よりも高く、学校研究(理科の研究)の成果の1つであるといえる。

質問紙○100%の児童が「朝食を毎日食べている」と回答した。また、「人の役に立つ人間になりたいと思う」も100%であり、キャリア教育等の充実の成果といえる。その他、「家で、学校の授業の予習・復習をしている」「将来の夢や希望をもっている」という質問では、いずれの回答においても、全国平均より望ましい傾向にあった。

【埼玉県学力・学習状況調査：国語・算数・質問紙】

国語○「読むこと」の領域や「話す・聞く能力」の観点で正答率が比較的高かった。

国語●「書くこと」に関する問題で、正答率が県平均より低かった。

算数○基礎・基本的な内容での正答率が比較的高かった。

算数●数学的な考え方を問う問題やや記述式の問題の正答率が県平均より低かった。

質問紙○4、5、6年生全体に共通して、質問「勉強することが楽しい、好きだから」に「よくあてはまる」という回答や、質問「将来の夢や目標を持っていますか」に「持っています」の回答が、県平均より望ましい傾向にあった。その他にも、質問「家で、授業の予習や復習をしている」「平日、学校以外に1時間以上勉強している」に「よくあてはまる」との回答が5、6年生で県平均より望ましい傾向にあった。

【NRTの検査結果】

国算○本年度より深谷市で一斉実施された学力検査(4年生対象)において平均偏差値が全てにおいて50を超えており、学力が高い傾向にあることがわかった。

課題等への取組・改善策

○本年度も「腰骨を立てる」ことを学校教育目標に学習や生活の中で話を聞く態度や学習への集中力を高めている。

○本年度も深谷中・南中学校区共通指導「あたりまえのことをあたりまえに」の取組をすすめている。

○国語Bの課題を踏まえ、「考えたこと」を「表現する」活動を重視した授業改善を行っていく。

○校内の言語環境を整え全教室に「話(発表)の聞き方」「発表の仕方」の正しい話型を掲示したり、考えたことを自分の言葉で表現できるよう自力解決の時間を十分にとったりして「言語活動の充実」をこれまで以上に図っている。

○考える力をより育成するために問題解決的な学習の充実を図っています。具体的には、授業改善を行い、「どうしてだろう」「なぜだろう」という問題意識を児童が持てるような導入を工夫している。

○全教科・全授業で「桜ヶ丘小スタイル」を実践するとともに、学校研究「理科・生活科」において現在求められている「主体的・対話的で深い学び」につながる授業実践を研究している。

○金曜日の学習タイムでは、書く活動の充実のためにコラム学習やB問題の過去問プリントを実施する。

○学力向上に効果的な取組をした教職員の取組を全職員で分析共有し、指導に生かす。

○算数の少人数指導では習熟度別の学習指導をより充実させ、課題のある児童には基礎基本の確実な定着を図る。

○全国学力学習状況調査や埼玉県学力学習状況調査、NRT、CRTの分析結果を校内研修で周知し、課題について授業の中で効果的に扱い課題改善につなげる。

○学力向上推進委員会を定期的(月1回程度)に開催し、各学年の取組状況について進捗状況等を互いに確認し合ったり、効果のあった取組を周知したりする。

○教師用と児童用の「プリントボックス」を設置し、A問題B問題に対応した基礎・基本問題応用問題のプリントを用意して活用を図る。

〈立腰姿勢〉



〈桜ヶ丘小スタイル〉

桜ヶ丘小スタイル

- ①学習の目標がはっきりしているか。
- ②授業の進め方の見通しがもてるか。
- ③黒板が見やすいか、ノートがとりやすいか。
- ④使った資料(絵、写真等)がわかりやすいか。
- ⑤子ども達が腰骨を立てて、先生の話や説明をしっかりと聞いていたか。
- ⑥「話の聞き方」や「発表の仕方」を意識して学習していたか。
- ⑦けじめのある態度で学習していたか。
- ⑧友だちと協力して学習していたか。

〈はっぴょうの仕方〉

